

レッドデータブックひろしま カテゴリー定義

区分及び基本概念		要件
<p>絶滅 (EX) 広島県ですでに絶滅したと考えられる種</p> <p>野生絶滅 (EW) 飼育・栽培下でのみ存続している種</p>		<p>過去に広島県に生息・生育したことが確認されており、広島県ですでに絶滅した種または少なくとも野生では絶滅したと考えられる種で、次のいずれかに該当する種</p> <p>【確実な情報があるもの】</p> <p>① 信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。</p> <p>② 信頼できる複数の調査によっても、生息・生育が確認できなかった。</p> <p>【情報量が少ないもの】</p> <p>③ 過去50年間前後の間に、信頼できる生息・生育の情報が得られていない。</p>
絶滅危惧	<p>絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 絶滅の危機に瀕している種</p> <p>現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。</p>	<p>次のいずれかに該当する種</p> <p>【確実な情報があるもの】</p> <p>① 既知のすべての個体群で、危機的水準まで減少している。</p> <p>② 既知のすべての生息・生育地で、生息・生育条件が著しく悪化している。</p> <p>③ 既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。</p> <p>④ ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。</p> <p>【情報量が少ないもの】</p> <p>⑤ それほど遠くない過去(30年～50年)の生息記録以後確認情報がなく、その後の信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難である。</p>
	<p>絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 絶滅の危険が増大している種</p> <p>現在の状態をもたらしている圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。</p>	<p>次のいずれかに該当する種</p> <p>【確実な情報があるもの】</p> <p>① 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。</p> <p>② 大部分の生息・生育地で生息・生育条件が明らかに悪化しつつある。</p> <p>③ 大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。</p> <p>④ 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。</p>
<p>準絶滅危惧 (NT) 存続基盤が脆弱な種</p> <p>現時点での絶滅危険度は小さいが、生息・生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位のランクに移行する要素を有するもの。</p>		<p>次に該当する種</p> <p>生息・生育状況の推移からみて、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。</p> <p>a 個体数が減少している。</p> <p>b 生息・生育条件が悪化している。</p> <p>c 過度の捕獲・採集圧による圧迫を受けている。</p> <p>d 交雑可能な別種が侵入している。</p>
<p>要注意種 (AN) 評価するだけの情報が不足している種、または、広島県の自然特性等から保護上の重要度の高い種</p> <p>現時点では絶滅危険度の評価は困難であるが、上記のランクに移行する要素を有するもの。</p>		<p><情報不足></p> <p>絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息・生育状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種</p> <p><保護上重要な種></p> <p>地理型としての特徴を有し、生物地理学的観点からみて重要と判断され、絶滅の危険が高い地域個体群を含む種</p> <p>上に該当する種のうち、次のいずれかの要素を有しているもの。</p> <p>a どの生息・生育地においても生息・生育密度が低い。</p> <p>b 生息・生育地が局限されている。</p> <p>c 生物地理上、孤立した分布特性を有する。</p> <p>d 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。</p>